令和８(2026)年度

ジュニアゴルファー育成助成金事業

中間報告書

公益財団法人
KP-NEXTみらい財団

１ はじめに

当財団では、未来のプロゴルファー、日本・世界で活躍する選手を育成するため、全国のジュニアゴルファーを対象に競技活動や練習環境の向上を支援している。本年度採択された助成対象者から、活動状況と成果、課題、今後の取り組みについて中間報告が寄せられたため、以下のとおりその概要をまとめる。

２ 競技活動 大会成績の状況

各選手は全国・地域大会、海外の国際大会、プロトーナメントやプロテストなどに挑戦し、次のような成果が報告された。

（１）全国大会及び地域大会での上位進出

日本ジュニアゴルフ選手権では３位、３位タイ、７位、８位などの成績が報告された。また、関東アマチュアゴルフ選手権、関東ジュニアゴルフ選手権、東日本高等学校ゴルフ選手権などで優勝した選手もおり、日々の練習の成果を競技の場で発揮している。

（２）海外の大会への参加と経験の蓄積

世界ジュニアゴルフ選手権では、５位に入賞し翌年のシード権を獲得したとの報告があった。米国やタイへの遠征を通じ、異なる気候や芝、言語などの環境に対応しながら、国際舞台で経験を重ねている。

（３）プロ競技への挑戦とプロテストでの成果

ミズノオープンの予選会を経て本戦に出場した例や、日本女子オープンへの出場が報告された。JLPGAステップ・アップ・ツアーでは６位及びベストアマチュア賞を獲得した選手もいた。プロテストでは一次・二次予選通過に加え、最終プロテスト10位タイで合格したとの報告も寄せられた。

３ 練習内容および取り組みの変化

各選手は、大会で見つかった課題を日々の練習に反映し、技術・身体の両面から競技力の向上に取り組んでいる。

（１）技術向上に向けた取り組み

・ショットの安定と、フェード・ドローの打ち分けに向けた練習
・実際のグリーンを用いたパッティングの精度・距離感の強化

（２）体力づくりとコンディショニング

・ジムでの個別指導、筋力・体幹トレーニング、ストレッチの継続
・複数日にわたる競技でプレーの質を保つための身体づくり

継続したトレーニングにより飛距離が伸びた、疲れにくくなったとの報告もあり、練習の成果への手応えが示されている。

４ 遠征 競技参加における助成の効果

助成金は、大会遠征の交通費・宿泊費、海外渡航費、エントリー費・プレー費のほか、トレーニング費や用具の調整費などに活用されている。助成によって競技活動を続けるうえでの負担が軽減されたとの声が寄せられた。

・海外遠征を通じて国際大会で競技する機会を得ることができた
・遠方の大会や複数の試合に挑戦することができた
・費用面の不安が軽減され、競技に集中することができた

こうした報告から、経済的な支援が大会参加の機会を広げ、継続的な競技活動を支えていることがうかがえる。

５ 課題と今後の目標

選手たちから挙げられた今後の課題・目標は次のとおりである。

（１）さらなる技術向上

・ショットの安定と大きなミスの減少
・パッティングの精度・距離感の向上と飛距離の強化

（２）次の競技目標への挑戦

・プロテスト合格やQTでのツアー出場権獲得
・全国・国際大会での上位進出、世界ジュニアでのシード権獲得
・ナショナルチーム入りを目指した競技力の向上

（３）身体づくりと継続的な練習

・３日間・４日間の競技でも力を発揮できる体力の強化
・けがを防ぐための身体づくりと体幹・柔軟性の向上

各選手は、自らの課題と目標を明確にし、次の大会や将来の競技生活に向けて練習に励んでいる。

６ 支援への感謝の言葉

報告書には、本財団の支援に対する感謝と、今後の競技活動への意欲が寄せられている。

・「おかげさまで、たくさんの試合に挑戦することができました。」
・「今年も助成金を活用して、海外遠征など貴重な経験を積むために活動ができております。」

選手たちは、支援への感謝を胸に、それぞれの目標に向けて努力を重ねている。

7 総括

本年度の中間報告では、国内外の大会での入賞、プロ競技への挑戦、プロテスト合格などが報告された。選手たちは、競技経験を通じて課題を見つめ直し、技術の向上と身体づくりに取り組んでいる。

助成金は、遠征や大会参加、日々の競技活動を支える費用に活用され、挑戦の機会を広げる支えとなっている。当財団は今後も、ジュニアゴルファーが安心して競技に取り組める環境づくりを支援し、日本ゴルフ界を担う次世代選手の育成に寄与していく。

以上